

## 江戸市中の料理屋

江東区深川江戸資料館

## 1. 料理屋の成立

17世紀初頭の江戸。徳川幕府が成立し、その本拠地としての街作りが行われました。しかし、半世紀を経た明暦3年（1657）の大火によってその多くを失った江戸は、ふたたび新たな街作りの必要に迫られました。

復興工事には、全国から職人・人足が集まり、まさに建設ラッシュとなって活気がよみがえりました。その際、こうした一時的に呼び集められた職人や人足のために煮売り屋という商売が生まれました。

煮売り屋は、魚・野菜などを煮て食べさせる飯屋のことで、酒も出すようになり復興・拡大する江戸市中のあちこちで繁盛しました。

これがきっかけとなって、江戸には料理屋が次第に増え、高級化して18世紀後半頃には料理茶屋が誕生しました。安永6年（1777）刊行の江戸・京・大坂の評判記『富貴地座居』には浮世小路（日本橋）の百川をはじめ、深川洲崎の升屋・深川の二軒茶屋などが紹介されています。

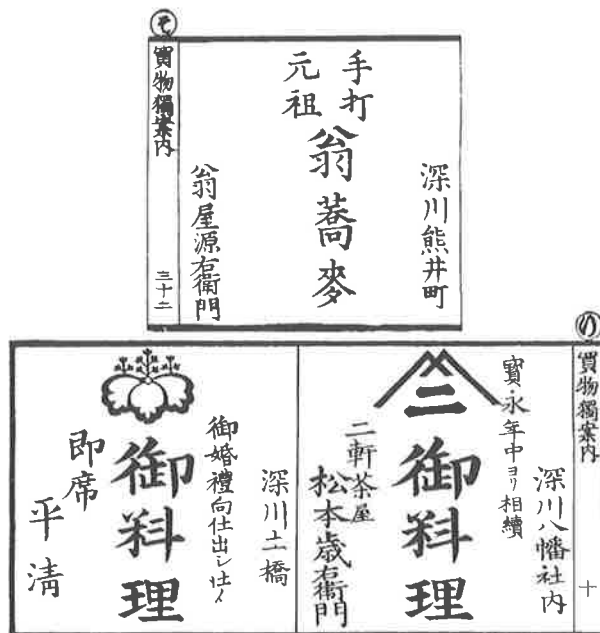
こうした店では、調理法に工夫をこらし、食器をはじめ室内の家具・調度品に高級品を使用し、さらに庭園にも手をかけて客をもてなしました。

また、こうした店には文人が集まり、宴を催したため彼らの著作などを通じて評判が広まってきました。

## 2. 江戸名所と料理屋

料理屋やその他の飲食店が増加していく要因には、庶民による信仰と行楽をかねた寺社参詣や周辺の名所散策といったレジャーの広まりがあげられます。

江戸初期には『江戸名所記』『江戸雀』などが出版されましたが、後期になると江戸市街地の



『江戸買物独案内』より

拡大に呼応して、名所の地域的範囲も広がりを見せたため、より大部の『江戸名所図会』『東都歳事記』『江戸名所花暦』などが生まれました。また浮世絵でも安藤広重の『名所江戸百景』に見られるような江戸名所をテーマとする作品が登場し、人気を集めました。

さらに七福神や六阿弥陀、六地藏などの巡拝コースが設定されたり、大寺社で開かれる祭礼・開帳や両国川開きなどの年中行事が都市のイベントとして、人々の関心を引き、その周辺が名所となっていきました。

江戸における名所成立の要素としては、次のような点があげられます。

- (1) 大規模な寺社の創建
- (2) 年中行事の展開
- (3) 周囲の景観（海浜・河川・丘陵など）
- (4) 名物・名店の存在

江戸名所は、普段の疲れや苦勞などの「厄」を洗い流して、リフレッシュさせるための役割を担っていました。

### 3. 料理屋の分布

江戸で繁盛した料理店の案内書に文政7年(1824)刊行の『江戸買物独案内・飲食の部』と嘉永元年(1848)刊行の『江戸名物酒飯手引草』があります。いずれも江戸後期の案内書で、約20年の開きがあります。

『独案内』では、会席料理・茶漬<sup>づ</sup>け・蒲焼<sup>かばや</sup>き・汁粉<sup>しるこ</sup>・団子・寿司<sup>そば</sup>・蕎麦<sup>そば</sup>・菓子などの店が収録され、『手引草』には会席料理・茶漬<sup>づ</sup>け・蒲焼<sup>かばや</sup>き・どじょう・あなご・なまず・寿司<sup>そば</sup>・蕎麦などの店があげられています。これらの食物が、当時の江戸名物だったのでしょう。

さて右の表は、各店舗を明治11年(1878)に旧江戸の御府内を分割して設定された15区ごとに、2つの史料に収録されている店の分布をまとめたものです。ここからいくつかの特徴を探ってみましょう。

- (1) 日本橋を起点とする、東海道・中仙道筋の神田・日本橋・京橋・芝と浅草に店舗が集中しており、江戸開府以来の町人地＝下町と、以前の門前町＝浅草のにぎわいがうかがえます。
- (2) 麻布・赤坂・四谷・牛込・本郷などの山の手地域は、武家地であるため店は少なかったようです。しかし、麴町・赤坂・小石川などでは、武家地の中に町屋が置かれて店も多く、ことに主要街道筋に集中しています。
- (3) 2つの史料の年代差(二十数年)の間に、浅草が日本橋に代わって、もっとも集積度の高い地域となっています。また、隅田川以東の本所深川地域も比率が高くなっています。
- (4) 集積度の高い地域は、(1)のように江戸初期からの町人地であったことのほかに、神田明神・日枝神社・増上寺・寛永寺・浅草寺・富岡八幡宮深川三十三間堂などの有力寺社や、江戸湾・隅田川といった水辺に臨む、深川洲崎や両国橋界限など、大規模な建物や景観のよい場所を含む地域で、料理屋が多かったこともわかります。

以上のように、江戸の都市的拡大とともに江戸の料理屋も周辺地域へと広がりを見せながら、付近の名所とともに発展していきました。隅田川以東の深川にも、こうして料理屋が増えたのです。

【江戸市中の料理屋分布】

地 域	「江戸買物独案内」 文政7年(1824)		「江戸名物酒飯手引草」 嘉永元年(1848)	
	軒 数	全体比%	軒 数	全体比%
神 田	17	6.3	30	5.0
日本橋	55	20.4	102	17.0
京 橋	37	13.8	37	6.2
芝	19	7.1	65	10.8
麻 布	2	0.7	5	0.8
赤 坂	2	0.7	15	2.5
麴 町	17	6.3	31	5.2
四 谷	4	1.4	8	1.3
牛 込	5	1.9	14	2.3
小石川	2	0.7	16	2.7
本 郷	9	3.3	11	1.8
下 谷	19	7.3	44	7.3
浅 草	41	15.2	132	22.0
本 所	11	4.1	46	7.7
深 川	10	3.7	25	4.2
その他	19	7.1	19	3.2
計	269	100.0	600	100.0